

第4回 三重在宅ケア研究会開催



平成28年10月13日(木)あさけプラザ「ホール」にて第4回三重在宅ケア研究会が行われました。一般演題、一つ目は「在宅看護師という働き方」と題しまして、当院看護師の高洲なぎ沙が当院の看護業務を紹介いたしました。

二つ目は「新米在宅医の働き方」と題しまして、当院医師の門間文彦が入職以来、6ヶ月の経験を発表いたしました。

特別講演は三重大学・名城大学 非常勤講師で薬剤師、がんピアサポーターの久田邦博先生をお迎えして、「がん患者として求める医療コミュニケーションと服薬支援・栄養サポート」についてお話いただきました。患者になったからこそ分かる、敬語よりも、お辞儀よりも大切な患者さんに「寄り添う姿勢」を学ばせていただきました。

忘年会



「年末恒例忘年会」を、12月27日にかに本家四日市店で開催しました。

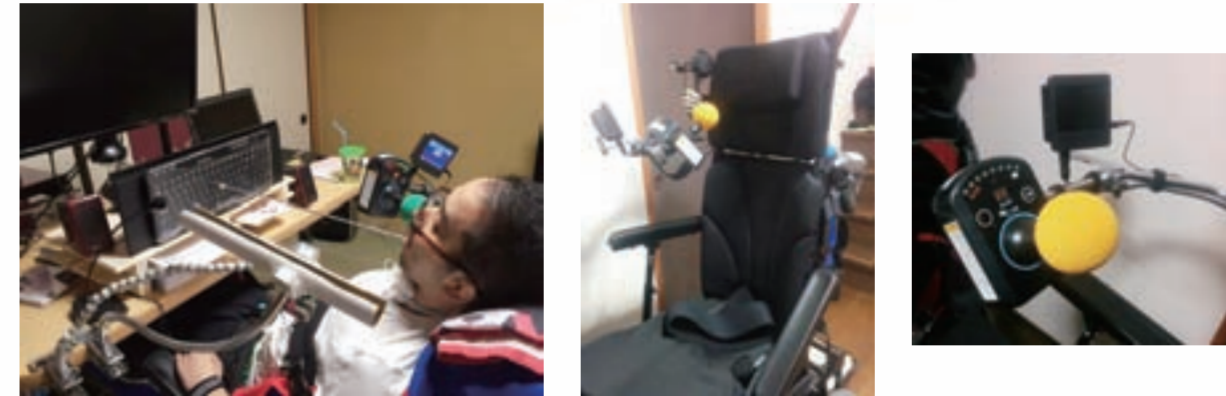
今年はスタッフの皆さんも参加され、にぎやかな忘年会となりました。嬉しかったのは、参加してくれた子供さんたちが本当に楽しそうにしていたことです。普段見られないお母さんの一面も見ることができました。

お料理はかに本家だけにカニ尽くしで、もう当分カニはいらないというくらい食べつくしました。また、子供さんたちも参加のジャンケン大会では、センスのいい豪華な景品を各自が手にして大満足の様子でした。(景品を用意してくれた院長、浦野さんありがとうございます！来年もよろしく！)

最後に、お店の方をお願いしてスタッフ集合写真を撮ったのですが、「はい、撮りませーす!!!あ、動画でした」のどこかで聞いたことがあるようなやりとりがあり、大爆笑に包まれて無事に終了となりました。来年もまたがんばろう！と心を新たに帰宅の途に就きました。



看護師だより



Aさんと当院が関わり始めたのは3年前、退院後ご自宅での療養がスタートした時でした。Aさんは第3、4頸椎の脱臼骨折が原因で手足が動かず、寝る時のみ人工呼吸器をつけて生活しておられます。当院訪問開始時よりデイサービスや訪問看護、訪問リハビリ、訪問ヘルパーを利用されてご自宅で過ごされてきました。また、時々ご家族が車椅子を押しライブや買い物に出かけたり、マウスピースでスマートフォンから友人とのメールをしたり、リハビリではアイパッドを操作しエクセル、ワードが使えるよう訓練しておられました。ある日Aさんから「仕事をしたい。何かできることはないか。」とお話がありました。きっかけになればと、きらら学園の先生に同じ障害を持ち仕事もされている方をご紹介して頂きました。実際に会われ、大変刺激を受けられたようでした。障害者就労支援ブラウからのご紹介で、昨年6月に就職が決定し現在では自宅で8時間以上パソコンに向かって仕事をしておられます。移動に必要な電動車いすも導入し年末には仕事で東京出張と、ますますAさんの活動範囲は広がっています。

退院直後の表情と違い今の柔らかく希望に満ちた表情は嬉しいと同時に私達も毎回元気を頂いています。今後の目標は競馬がお好きなので、北海道の牧場を見に行くことだそうです。ぜひ実現させましょう！私達も引き続き全力でサポートさせていただきます。

ケアマネだより



息子さんと二人暮らしのYさん。以前は家事等を全部自分一人でごなされていました。

数年前に腰を痛め動くことができず、また、家事もできなくなりとても

辛い思いをされました。「このままではだめ。以前の様に体を動かせるようになりたい。」と奮起！自分にできることを続けたい。弱っていくことを考えずに毎日楽しく過ごしたい、と治療に取り組みました。電車やバスに乗って出かけたり、大好きな温泉に入ってゆっくり体を癒したいと目標を立てている頑張り屋で明るいYさん。いつまでも元気に毎日を過ごしてください。温泉に行けるようにみんなで応援しています。ファイト！！



Iさんの愛犬チコちゃん

家の中を元気いっぱい走り、お客様をお迎えするかわいい女の子です

